

盛岡市の地方創生活動に全力で取り組んだ2年間の大学生活は何よりも濃く、深いものでした。そして、遠方の地で起きていることも自分事として捉える癖が身に付き、より主体的な行動を心掛けることができました。

定例の会議では、皆様が真摯に耳を傾けて下さったおかげで、自身の持つ考えを真っ向からぶつけることができました。インプット型の講義が主流になる中、オンラインを活用したアウトプット型の活動は、伝えたいことを言葉にするための大変貴重な機会でした。それによって生まれる双方の意見交換は、私の知見を広げてくれる大きなきっかけとなりました。学生のアイデアをプロの目線からご指導いただいたことで、最後に形として出来上がるものはどれも質の高いものとなり、やりがいと達成感に満ち溢れていました。特に、前年度から2年連続で実現している「すずあかね」を使ったレシピの開発は活動の目玉の一つとなり、あらゆる面で大きなインパクトを与えることができたのではないかと考えております。レシピの考案から始まり、コンテスト開催、商品開発に至るまで、多くの方々に支えられて最後までやり通せたことを大変嬉しく思います。

また、企画の1つとして、「すずあかね」の知名度向上を目的としたフリーペーパーの制作を提案させていただきました。事前の計画から、実物の制作まで一貫して携わることができました。どのようにデザインしたら目を引くのか、どう伝えたら読み手に響くのか、思考を巡らせ完成させることができた作品です。この広告を見るだけで、私たちがどんな取り組みをしているのか一目でわかるような構成となっています。多くの方々のご協力のもと発行までたどり着くことができました。そして、初弾のアイデアを後輩に託せたことで、地域への継続的な情報発信が見込めることを光栄に思います。盛岡市玉山総合事務所産業振興課に置かせていただいておりますので、ぜひ一度手に取り、ご覧になってみてください！

本活動においてあらゆる角度から支援策を実現するため、チーム一丸となって調べてみたり、実際に制作してみたりと、多岐に渡る経験ができ、矢のように過ぎ去った2年間でした。最終年度はこれまでの集大成として築き上げた数々の施策が、更なる進化を遂げたものになることを願っています。そして、ゼミで実現したアイデアが、盛岡市全体の農業従事者に波及し、就農人口増加に結びつく日を待ち望んでいます。地方創生活動を最後まで支えて下さった、澁澤教授をはじめとする皆様に深謝申し上げます。

私にとって「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」に関わらせて頂いた2年間は「じぇじぇじぇ！」と思うような事が多くあった充実した時間でした。私たちは2年目ということもあり、先輩方が築いた1年目の成果を引き継ぐ形で、活動を行いました。その活動の中で菊地様の経営基盤をさらに強化できたと考えています。

特にオンライン販売の実現は、1年目と状況ががらりと変えるものとなりました。オンライン販売については最初、否定的な見方から始まりましたが、今の時代、販売チャネルを拡大し、菊地様のたくさんの人に「すずあかね」を食べてもらいたいという思いを叶えるためには必要なことでした。そのため、自分たちで菊池様に一番あった販売方法を考え、ただ調べるだけでなく自分達でプラットフォームを使ってみることで、よりよいものを選定し、提案しました。結果、それまでの活動や先輩方のおかげもあり、オンライン販売が実現しました。その後何度もSOLD OUTの文字が浮かぶサイトを見て、感動を覚えたことを今でも思い出せます。

また社会的意義のあるものとしてオーディオブックの制作は、私の成長のためにもかけがえのないものとなりました。オーディオブックは全部で6部制作し、私は脚本と主人公の菊池紀一の役を演じさせて頂きました。脚本ではストーリーとして面白いものとなっているか、流れは適切かなどを前提に、これまで私たちが行った活動とリンクさせることで情報発信も行えるよう制作させて頂きました。また私を含め、オーディオブックで役を演じることなど初めての人たちで制作したため、澁澤教授にご指導を頂きながら、自身の成長を感じられるものが制作できたと思っています。自分の演技が拙いことを実感していますが、当時主人公役に手を挙げたことを後悔はしていません。最後のシーズンでは菊地様本人に出演して頂き、玉山うるおいイチゴ園だけのオーディオブックを提供できたことは私の誇りとなっております。

以上の活動やその他の活動、レシピコンテストの開催もあり、来年度にはビニールハウスが増え、規模が拡大することになりました。そのことが私たちでおこなった結果のすべでだと思います。このような他で味わえない感動と経験をする機会を頂いたことを大変感謝致します。

今年度で私がこれらの活動に主として関わることはなくなりますが、来年度は3年目ということで集大成となります。そんな集大成を飾る後輩たちにエールを送りつつ、私たちのこれまでの活動が活かされ、盛岡市と菊地様のこれからの発展の力になることを願っています。

最後にこれまでの活動を支えてくれた盛岡市の皆様、澁澤教授、先輩方、後輩達にお礼申し上げます。なにより私と共に二年間活動してくれた仲間達に感謝致します。本当にありがとうございました。

～盛岡市地方創生プロジェクトを振り返って～

この2年間を通して、玉山うるおいイチゴ園の園長である菊地様に対して、学生独自の視点から「すずあかね」の付加価値を高めていくことができたと考えています。その中でも貢献できたと強く感じたのは、オンライン販売の導入、レシピコンテストです。

1つ目はオンライン販売についてです。オンライン販売に関して当初、否定的な見解もありましたが、販路を拡大していく中で必要不可欠な取り組みであると考えていました。そこでどのように提案をしていくかを考え、手数料を独自で計算してまとめ、私たち自身が実際に販売サイトを使用して利便性を確認するなど、独自の工夫を凝らしました。結果的にオンライン販売が開始され、無事に完売することができました。私たちの働きかけによって提案が実現したことはもちろん、成果につながったことが大変嬉しく、「SOLD OUT」をサイト上で確認したときは大変やりがいを感じられた瞬間でした。

2つ目のレシピコンテストは「すずあかね」と私たちを繋ぐ架け橋となった活動として印象深いものとなりました。レシピを考えていく際には、独自の考えや発想を自由に盛り込むことができました。自由度が高い一方でアイデアを練ることが難しく、制作過程では何回も繰り返しました。しかし、これまでになかった視点から「すずあかね」について考えるきっかけとなり、「すずあかね」をより身近に感じることができました。結果的に優勝することは叶いませんでしたが、独自の視点で付加価値を入れることができた活動として印象に残りました。

さらに、優勝したレシピはアメリカのレストランでも商品化されました。「いちご自体の輸出は不可能だから諦める」のではなく「レシピであれば海外にも取り組みの輪を広げていける」というモデルは「すずあかね」の価値をグローバルに高めていく点で重要な取り組みであったと考えています。

2つの取り組みは農園経営に対して、自ら向き合っていくという点で私たちにとっても、意義のあるものとなりました。結果として、経営は順調に進み、来シーズンにビニールハウスが増設されるなど、生産規模の拡大を決定したとのこと。経営支援に関わらせて頂いた立場として、この上ない2年間の成果であり、嬉しい限りです。

最後に、活動の中で互いに支え合ったチームの仲間感謝します。また、菊地様、これまで活動を支援して頂いた盛岡市職員の皆様、そして澁澤教授に心よりお礼を申し上げます。

活動に主として関わるのは今年度までですが、元旦に行われた箱根駅伝のように、3年目、可能ならばその後も関わっていく後輩たちに襷を渡し、菊地様とともに引き続き走っていく姿を陰ながら支えていきたいと思えます。

東洋大学の盛岡地方創生チームは、「新規就農の農業経営体から見る、多角化経営の分析と将来展望について」を調査テーマに、つくる農業のみならず儲かる農業を目指してきました。儲かる農業を実現するためには何が必要なのか、玉山うるおいイチゴ園様との提携を通じ「すずあかね」という苺の品種を初めて知った時に、例え良いものを生産者様が作っていても消費者に良いものだとは伝わらなければ意味が無いことに気付き、ならば私達はその魅力、良いものと伝えるお手伝いをさせて頂こうという考えに至りました。

私達が所属しているゼミナールが情報発信を強みとしていることもあり、この強みである情報発信力を魅力や、良いものと伝えるお手伝いに活かせるのではないかと考えた私達は話題性を生み出せる様な付加価値向上策を考え、それが実際に可能なのかを検討しながら最終的に10個の付加価値向上策を実現させることが出来ました。付加価値向上策の実現によって話題性の創出に微力ながらも学生という立場で貢献出来たこと、普段出来ない貴重な体験をさせて頂いたこと大変感謝しております。

また、オンライン販売を実現することが出来たことも今年度の大きな成果として挙げられると思います。当初、オンライン販売について否定的な立場だった玉山うるおいイチゴ園様が会議を経てオンライン販売に対し肯定的な見解を最終的に示して下さいただけではなく、今年度には実際にオンライン販売を開始して下さいました。オンライン販売の方は無事に完売し、今後もオンライン販売を長期的に継続出来る可能性を感じる事が出来ました。

全体的な評価として、私は東洋大学の2年間の盛岡地方創生活動は大成功だったと思っております。特に、今年度の活動は目覚ましいものがありました。最初は不可能とされていたオンライン販売を実現することが出来ただけでなく、多岐に渡る付加価値向上策の提案をするだけでなく実際に付加価値向上策の中の幾つかを学生側で制作することで実現することが出来たこと。2年間の盛岡地方創生活動は正に「不可能を可能にする」の言葉通りの活動をする事が出来たと言えます。

しかし、こういった「不可能を可能にする」の言葉通りの活動をする事が出来たのは裏で支えて下さっていた方々や盛岡市の皆様方のお陰であると思っております。活動を通して沢山の経験を積みさせて頂き本当にありがとうございました。2年間の活動で学んだことを、今後の社会人生活に活かしていきたいと思っております。

文京区学生と創るアグリイノベーション事業に2年間参加させていただきました。活動を通して本来なら得られない貴重な経験をすることが出来たと強く感じています。起業し「すずあかね」といういちごの品種を栽培している菊池様にお力添えさせて頂くということで、私自身「すずあかね」という品種を初めて聞いたので、不安な部分もありましたが、こうして2年間を振り返ってみると情報発信力は大幅に強化されたのではないかと思います。

私の初の活動としては、絵本の制作です。チームで構成、作画に分かれてどのような物語が小さなお子様にも伝わるのか、面白いと感じてもらえるのかという点をチームで考えながら制作させていただきました。次に中間報告会で同じくプロジェクトに参加していた跡見学園女子大学、拓殖大学、東京大学の活動報告を聞かせていただきました。対象にしているものは違いますが、どの大学もより良い盛岡を目指して活動している姿に刺激をもらいました。そして、2022年7月に初の現地訪問をさせていただくことができました。玉山うるおいイチゴ園に足を踏み入れることができ、ハウスの中の様子、「すずあかね」を実際に食べることができ、オンラインミーティングなどで聞いていた特徴などを実際に食べることでより理解が深まりました。また現地視察は、第2回レシピコンテストの最終審査会を含むもので、私のレシピが選出されなかったことは悔しいですが貴重な時間を過ごすことができました。

そして、私が主となり制作させていただいた、オリジナルカレンダーについてです。いちごと共にカレンダー販売することで「すずあかね」の購入者様に次のシーズンでも忘れることなく購入いただけるように、またカレンダーを通して「すずあかね」がどのような流れでできているのかを少しでも理解していただけるようなものを目指し制作しました。QRコードや菊池様の写真を入れるなどのオリジナル要素を強くしたかったため、既存のテンプレートではカバー出来ない部分が多くあり苦戦しましたが、メンバーとの協力により完成し、菊池様にお渡しすることができました。このようなことが私個人でもこれだけ多くの貴重な経験をさせていただき、ゼミナール全体ではここには書ききれないほどの多くの取り組みに参加させていただきました。このような事業に参加させていただけたことに対して、玉山うるおいイチゴ園園長菊池潤様、盛岡市の皆様、そして澁澤健太郎教授に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2年間、盛岡地方創生活動に携わらせていただきありがとうございました。私達は、「新規就農の農業経営体から見る多角化経営分析と将来展望について」という調査テーマを設定し、玉山うるおいイチゴ園園長の菊地様のサポートをしてきました。私たちは、数多くの提案と実行によってとても濃い2年間になったと思っています。その中でも私がより携わることができたものを紹介しながら思いを書かせていただきます。

1つ目は、絵本製作です。こちらは幅広い世代に「すずあかね」を知ってもらおうとなった時、私にできる一つのことでした。コロナ禍によって、外に出られないことによる絵本需要の拡大を踏まえ、小さな子供やその保護者の方を対象とすることで「すずあかね」の認知度を上げていこうというものです。内容はどれもシンプルなものですが、読み応えのあるものばかりになっています。この制作に携わり多くのことを学ばせていただきました。いちごの成長過程を調べる機会からどれほど菊地様が時間と愛情をかけているかを知ることができました。また、小さな子供向けの絵本に対する配慮や少しの工夫により、良い作品を届け出すことができたと思っています。

2つ目は、オーディオブック制作です。目の不自由な方や活字が苦手な方などに楽しんでもいただける実話とフィクションを混ぜたものになっています。全5作品に渡るものであり、盛岡市の公式YouTubeに載せていただいたものになります。私が担当した役は、登場シーンは少ないですが特徴的な役割をしています。実際の私と役は全く違いますが、楽しみながら撮影できました。なかなか外部へと自分たちが活動しているものが発信されにくい中、初の自治体公式としての情報発信は今後の私にとっても意味のあるものになりました。

日本にある商品は安く美味しいものをと意識が高いため、どの商品も手軽な値段で販売されているものがほとんどです。そのような中、菊地様のように一日中「すずあかね」の世話をしている農家が手軽な値段で販売したとして利益がどれほどなのか。

この2年間を通して感じた菊地様の「すずあかね」の思いやかけたコスト、大変さなどは通常よりも高い値段で販売することは妥当であると感じました。この思いが、「すずあかね」を購入する方に届くよう、そして今後も農園が発展し続けるよう応援しています。最後になりますが、菊地様を始めとした盛岡市の方々並びにサポートしてくださった方があってこそこの2年間となりました。ありがとうございました。

盛岡地方創生レポート

今回2年間菊地様の農園玉山うるおいイチゴ園での地方創生活動で様々な施策に携わらせていただきました。菊地様とのオンライン会議など話し合いを行っていく中で農園を経営すること、たくさんの人に知ってもらうことは簡単なことではないということを改めて感じました。

最初は否定的だったオンライン販売も話し合いを重ね自分たちでオンライン販売サービスの提案を行い実際にオンライン販売が開始したとき、最初は直売などで販売されていた「すずあかね」が県を飛び出て様々な人のところへ届くと考えるとワクワクし、菊地様に合ったサービスを提案しオンライン販売が実現して良かったと感じました。

また、提案以外にも絵本制作やレシピ本出版など普段の大学生活では経験できないような活動を行うことができました。

絵本制作では、第1弾制作に携わり「すずあかね」がどのように成長していくのかの過程を描くストーリーにしました。絵本を制作すること自体初めてだった為、教授から指導を頂きながら試行錯誤を繰り返しメンバーとともに完成までもっていくことができました。実際に完成した絵本は盛岡市のホームページに掲載され自分が制作したものが市民の方や「すずあかね」を知らない方の目に留まると思うと制作を頑張ることができました。この絵本を制作することにより「すずあかね」を知ってもらうことに少しでも貢献出来たら嬉しく思います。

イチゴを使ったレシピコンテストで集まったレシピを一冊にしたレシピ集の出版では、全てのレシピを同じ形式にするために編集を行いました。年齢問わず様々な方に手に取ってもらったときに見やすいものになるようフォーマットをもとに制作することを心掛けました。このレシピ集はkindleにて出版されており出版することに携われたことを嬉しく思います。また、学生がレシピを制作しているため簡単にイチゴを使った料理を作れるのではないかと思います。このレシピを見て「すずあかね」を購入する人が増えることを願っています。

今回の地方創生活動ではこの他にも様々なことに参加させていただきました。参加する中で成功するかしないかは準備が必要でまず挑戦することが大切だということを学ばせていただきました。参加するにあたり度々の意見交換会などご協力を頂いた菊地様をはじめとする盛岡市の方々に感謝申し上げます。また、澁澤ゼミナールにいないと経験できないこと、感じることでできない感情を体験できこの活動を支えてくださった澁澤教授と先輩方に感謝申し上げます。